

【古今著聞集】

【】(出御待つばさ)

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

出御待つばさ、人々集まりみて、さまざまの物語言ひかはすに、少将内侍御つばの楓の木を見出して、「この楓に初紅葉のしたりこそ、失せにけれ。」と言ひたりけるを、頭中将聞きて、「いづれの方に候ひけむ。」とて、梢を見上げれば、人々もみな目をつけて見けるに、蔵人永継とりもあはず、「()の枝にこそ候ひけぬ。」と申したりけるを、右中将実忠、この言を感じて、「このころは、(a) (a)これほどの事も、心とくつち出づる人は(b) (b)かたきにてあるに、優に候ふものかな。」とて、うちめきたるに、人々みな入興して、満座感嘆しけり。まこととりもあはず言ひ出づるも、また(c) (c)聞きとがむるも、いと優にぞ侍りける。(d) (d)古今の歌に、

同じ枝を分きて木の葉の色づくは西こそ秋の初めなりけれ
と侍るを、思はえて言入りけるなるべし。

(古今著聞集)

問一 () にあてはまる言葉を、漢字一字で文章中から抜き出せ。

問二 (a) 「これほどの事」とは、何を指しているのか。次のア～エから選べ。

ア 蔵人永継の言葉 イ 初紅葉 ウ 物語 エ 古今の歌

問三 (b) 「かたきにてある」とは、どついう意味か。次のア～エから選べ。

ア かたくなるしいのに イ めったにないのに
ウ にくらしいのに エ たいしたことはないのに

問四 (c) 「聞きとがむる」の主語はだれか。次のア～エから選べ。

ア 少将内侍 イ 頭中将 ウ 蔵人永継 エ 右中将実忠

問五 (d) 「古今」とは、「古今和歌集」を指すが、この歌集が成立したのはいつか。次のア～エから選べ。

ア 奈良時代 イ 平安時代 ウ 鎌倉時代 エ 室町時代

問六 次の文は、本文の解説である。() () に適切な言葉を入れよ。ただしAには、四字、Bには三字の言葉を文中から抜き出せ。

「初紅葉はどこにあったか」という、日常的な話題に対して、(A) をもとにし、(B) 答えたことに、作者は知的な興味を感じている。

(長崎)

「解答」

問一 西

問二 ア

問三 イ

問四 エ

問五 イ

問六 A 古今の歌

B 心とく